

多様なコミュニティ形成の拠点となる住宅利用

「住み開き」の運営実態の整理

ORGANIZING THE ACTUAL OPERATION ON THE USE OF HOUSING, "SUMIBIRAKI", AS A BASE FOR BUILDING DIVERSE COMMUNITIES.

○森千紘*, 村川真紀**, 山田あすか***
Chihiro MORI, Maki MURAKAWA and Asuka YAMADA

In this study, we focus on "Sumibiraki", as a base for building diverse communities. The purpose of this study is to obtain basic findings on "Sumibiraki" cases. The survey method was a survey of the actual situation of PR activities and interviews with businesses.

- 1) The purpose and the way to interact with users and the community differ according to the architectural form of the case study.
- 2) It is considered necessary to select a space according to the philosophy and to plan and organize activities according to the space in the future live-work.

Keywords : Sumibiraki, Local Community, Utilization of Housing, urban planning

キーワード：住み開き 地域コミュニティ 住宅の活用 まちづくり

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景と目的

近年の公共の住宅や民間のマンションは、極めて閉鎖的な傾向がある¹⁾。隣近所付き合いの機会減少、町内会・自治会活動も高齢化や非加入世帯の増加などにより活気が失われつつある地域も多いことが社会的課題と認識されている²⁾。就労率の向上は住民の地域での活動時間の短縮にも繋がっており、いわゆる「地域の担い手」が減少していることも課題である。人々のライフスタイルの変化とともに進む地域コミュニティの希薄化の一方で、特に近年では、自身の興味関心や生活様態に応じて、ソーシャルメディアを利用し、自らコミュニティを再構築する社会へと変化している³⁾。

こうした社会動向も背景に、新たなコミュニティ形成の契機として、文化活動家のアサダワタル氏が「住み開き」と呼んだ^{注1)}活動やその概念が注目されている。「住み開き」は、住宅や民間事業所などの本来はプ

ライバートな空間を、その用途や機能を保ちつつ、一部を地域交流の機能を持つコミュニティカフェやギャラリー、趣味の教室などとして開放する活動である⁴⁾。人々自身の選択可能性が低い「地縁」が敬遠され自治会・町内会活動のあり方などが存続の岐路に立つ状況であるのに対し、現代の社会における個人の関係性など旧来とは変化しつつあるニーズを踏まえたうえで、高齢者や子供の居場所づくりや多様なコミュニティ形成を目指す活動は各地で草の根的に発生している⁵⁾。そして、「住み開き」はこうした活動の一つに位置づけられる。多様化する活動の受け皿として、公共施設のみでは量・質・自由度などの観点で不十分な面もあり、住宅などの私有空間を活用したコミュニティ拠点は地域活動の活性化や可能性の増大に寄与すると期待される。

「住み開き」は、人々が物理的に集まる「場」なしでもコミュニティが成立し得る世の中で、実体として存

* 東京電機大学未来科学部建築学専攻

* 東京電機大学未来科学部建築学科 研究員・博士(工学)

*** 東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士(工学)

* Student, Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ.

** Researcher, Department of Arch., School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki University, Dr.Eng.

*** Prof., Dept. of Architecture, Faculty of School of Science and technology for future life, Tokyo denki Univ., Dr.eng.

在する「場」としてのコミュニティ拠点の一つであり、公（パブリック）ではなく私的空間の一部を社会に開くことによる共（コモン）の場であると言える。この「住み開き」の運営実体や特徴とともに、運営者自身が住み開きをどのように捉え、運用しているのかの整理は、今後こうした場が地域に根付き、発展していくこと、また後続事例の展開等に有効な資料となると考えた。

そこで、本研究では多様な「住み開き」の事例のうち、自宅の一部を開放し、地域やテーマによるコミュニティ拠点として利用している事例に着目してその実態と特徴を整理することを目的とする。また、運営者に対するインタビューをもとに、住み開きのねらいとそのための建築的・地理的特徴等の物理的な条件の構造を明らかにする。

表 1 調査概要

調査概要	
【Web検索での事例収集調査】	
調査対象:	google で図 1 のワードを検索し、上から 100 件のうちいずれかの条件に当てはまる施設
調査内容:	HP からの情報収集
調査期間:	2020 年 10 月～2020 年 2 月
【SNS での広報活動内容調査】	
調査対象:	Facebook を用いて広報活動を行っている事例 17 件
調査内容:	Facebook での発信情報のテキスト収集
調査期間:	2020 年 4 月～2020 年 10 月
【ラダーリング法によるインタビュー調査】	
調査対象:	1 都 3 県に立地する 13 件の事例のうち許諾を得られた 9 件
調査内容:	「住み開き」の運営におけるねらいとその実現のために求められる建築的・地理的条件について
調査期間:	2020 年 10 月～2020 年 1 月
事例 A:	2020 年 10 月 15 日、事例 B: 2020 年 10 月 26 日、事例 C: 2020 年 10 月 23 日、事例 D: 2020 年 11 月 26 日、事例 E: 2020 年 10 月 20 日、事例 F: 2020 年 10 月 15 日、事例 G: 2020 年 11 月 26 日、事例 H: 2020 年 12 月 25 日、事例 I: 2021 年 1 月 5 日

2. 調査概要

調査概要を表 1 に示す。まず、「住み開き」の全国的な概況を把握するため、全国の「住み開き」の事例を対象として事例収集を行った。キャッシュをクリアしたブラウザの Web 検索機能を利用し、「住み開き」などの検索ワード（図 1）から表示上位 100 件を抽出した。そのうち、住み開きの定義（表 2）に該当する 75 件（当時）について設置場所や開催頻度等の運営に関する項目をそれぞれの HP から読み取り、整理した。

次に、より地理的条件によらない活動 PR や集客を期待できると思われる SNS を用いた情報発信を行っているケースに着目し、Facebook^{注2)} を用いて広報活動を行っている事例 17 件を対象に、発信している内容

表 2 住み開きの定義

「住み開き」提唱者アサダワタル氏による位置づけ
「自宅や個人事務所を代表としたプライベートな空間の一部に、本来の用途以外の新しいアイデアを盛り込み、様々な人が集えるパブリックな空間へと変えてゆくその活動、もしくはスペースを指す。」
本稿で取り上げる「住み開き」事例の設定
①個人宅での活動であること ②地域住民や興味関心を有する人に開かれたイベントプログラムを行っていること ③地域や趣味・興味関心等のテーマによるコミュニティ形成の拠点となっていること ④実費以外の費用をとらない事業であること（調査上、把握できる範囲で）

検索ワード	
住み開き	37 事例
家開き	5 事例
まちライブラリー（個人宅）	10 事例
『住み開き 家から始めるコミュニティ』	27 事例
世田谷トラストまちづくり	23 事例
地域共生の家	23 事例
住みびらき	13 事例
住み開き 東京	10 事例
住み開き 千葉	5 事例
家 開く	2 事例
住み開き 埼玉	8 事例
住み開き 神奈川	7 事例

図 1 検索ワード

表 3 住み開きの事例一覧（抜粋）

		世田谷トラストまちづくり 「地域共生のいえ」（行政からの支援有）				活動内容区分		開放空間		広報活動		その他	
団体名	所在地	最寄り駅	活動日	運営者	開始年月	建築	活動内容	高齢者福祉	子育て支援	交流・支援	介護・支援	その他	その他
1 NN	東京都 世田谷	松陰神社前駅 5 分	不定期	オーナー	2018.07	DIY	健康麻雀						
2 RT	東京都 世田谷	豪徳寺駅 11 分	不定期	オーナー	2006.08	建替え	地域サロン・哲学カフェ						
3 RB	東京都 世田谷	松原駅 8 分	不定期	オーナー	2008.09		子育て支援						
4 KM	東京都 世田谷	世田谷駅 7 分	不定期	オーナー	2010.02		高齢者交流						
5 MM	東京都 世田谷	自由が丘駅 6 分	不定期	オーナー	2010.04		おしゃべりサロン・着物、お茶体験						
6 AB	東京都 世田谷	桜新町駅 5 分	不定期	オーナー	2010.04		介護に関する情報交換の場						
7 AR	東京都 世田谷	東松原駅 4 分	不定期	オーナー	2012.03		出合いの場・情報発信の場						
8 MK	東京都 世田谷	祖師ヶ谷大蔵駅 5 分	不定期	オーナー	2013.01		囲碁						
9 II	東京都 世田谷	二子玉川駅 5 分	不定期	オーナー	2013.02		子供の憩いの場・子育て情報発信						
10 KA	東京都 世田谷	千歳船橋駅 6 分	不定期	オーナー	2013.03		ケアラースカフェ						
11 SY	東京都 世田谷	自由が丘駅 6 分	不定期	オーナー	2013.04		地域住民の交流						
12 NK	東京都 世田谷	二子玉川駅 10 分	不定期	オーナー	2013.05		子供の居場所・多世代交流						
13 KI	東京都 世田谷	東船橋駅 7 分	不定期	オーナー	2015.09	新築	哲学プログラム・落語						
14 AR	東京都 世田谷	池尻大橋駅 5 分	不定期	オーナー	2015.10		一人暮らし高齢者の居場所						
15 KY	東京都 世田谷	経堂駅 10 分	不定期	オーナー	2015.11		料理・ギャラリー						
16 SB	東京都 渋谷	渋谷駅 9 分	毎日	シェアの選択	2015.12	改修・DIY	パフォーマンスイベント・展覧会						
17 GO	東京都 板橋	大山駅 7 分	毎日	オーナー	不明		ボランティア・ワークショップ						
18 MB	東京都 北	田端駅 6 分	不定期	オーナー	不明		写真美術館・映画上映会・料理イベント						
19 TD	東京都 文京	根津駅 10 分	不定期	オーナー	不明		子供の居場所						
20 YH	東京都 墨田	八広駅 11 分	不定期	オーナー	不明		パーティー・音楽イベント						
21 MC	東京都 墨田	小村井駅 10 分	不定期	オーナー	不明		展覧会						
22 PB	東京都 江東	新小岩駅 2 分	不定期	シェアの選択	不明	改修	トークイベント						
23 SG	東京都 あきる野	武蔵増戸駅 16 分	土曜日	オーナー	不明		自宅ライブラリー						
24 ST	埼玉県 さいたま	武蔵浦和駅 6 分	不定期	オーナー	不明		地域住民交流・ワークショップ						
25 KD	埼玉県 さいたま	与野駅 6 分	月・火	オーナー	不明		カフェ・ワークショップ						
26 NZ	東京都 文京	根津駅 3 分	木・金	オーナー	不明	改修・DIY	まちライブラリー・日常的な貸し出しスペース						
27 NK	東京都 国分寺	西国分寺駅 9 分	金曜日	オーナー	不明		まちの持ち寄り図書館						
28 KT	東京都 国立	谷保駅 4 分	不定期	オーナー	不明	改修	図書館・食堂・コミュニティスペース						
29 OK	東京都 荻窪	西荻窪駅 15 分	不定期	オーナー	不明	改修	ワークショップ・カフェ						
30 HT	神奈川県 藤沢	藤沢駅 25 分	不定期	オーナー	不明		まちライブラリー						

の分析を行う。それぞれの事例の投稿のうち、最新の投稿から遡って100件の投稿記事のテキスト^{注3)}を対象として、テキストマイニングソフト「KH coder」^{注4)}を用いて単語やフレーズの出現頻度、相関関係を分析した。

これらのSNSによる情報発信を行っている17事例のうち、1都3県^{注5)}に立地する事例は13件で、このなかで調査の許諾を得られた9件にラダーリング・インタビューの手法を用いたヒアリング調査を行い、「住み開き」の運営におけるねらいとその実現のために求められる建築的・地理的条件などのことから、そしてその構造を可視化した。

3. 事例収集・広報活動実態調査

3.1 事例収集

全国の住み開き事例のうちインターネットで情報を公開している75事例のうち詳細なデータを多く得られた30件を表3に示す。活動のカテゴリーは活動内容から「高齢者支援／子育て支援／交流支援／介護者支援／NPO活動支援」の5分類とした。

1) 立地

最寄り駅との距離が10分以内の事例が約75.7%を占め、自宅周辺に限らず遠方からでも利用しやすい立地の事例が多いとわかる。

2) 開放空間

利用者に開放されている空間（開放空間）は主に居間やキッチンなど複数種類の部屋である。キッチンを開放している事例は40.0%を占め、イベントで料理など

の活動行っている事例が多いと推測できる。

3) 開催日

開催日は不定期の事例が81.2%を占めた。自宅を開いているという特性から、固定の日時での開催が難しいことが推測できる。

4) 概要

これらより、自宅を利用する住み開きは、オーナーの都合に合わせ、可能な範囲で行っている事例が多いことが確認できる。また、広報活動にSNSを利用する事例が50.5%を占め、既にある利用者のネットワークに加えて、いわゆるネット上の「口コミ」に依拠しつつ、

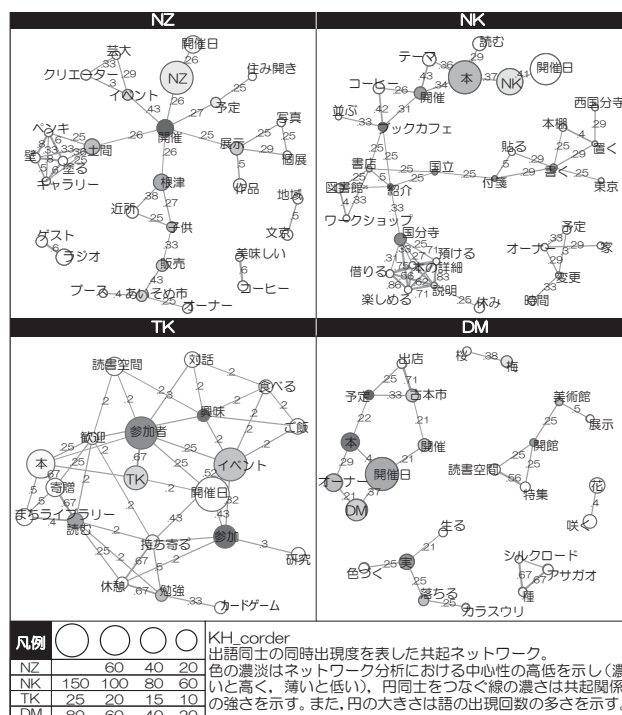


図2 KHコーダーによる自由記述内容の中心性視覚化

表4 各事例における facebook 投稿の特徴語句

NZ		TK		NK		DM	
頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数
ねづくりや	.130	イベント	.090	本	.172	開催日	.115
開催	.035	参加者	.080	開催日	.160	読書空間	.083
土間	.031	帝塚山ハウス	.051	オーナー	.134	ワークショップ	.047
展示	.027	参加	.045	テーマ	.034	実	.040
作品	.023	対話	.029	読む	.033	花	.040
ラジオ	.019	寄贈	.029	開催	.028	見える	.033
ゲスト	.019	作る	.029	国分寺	.026	咲く	.033
根津	.019	読書空間	.029	営業	.023	古本市	.028
遊び	.018	まちライブラリー	.025	コーヒー	.023	本	.023
販売	.016	ご飯	.021	ブックカフェ	.022	読書空間	.023
CN		ST		KK		KH	
頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数	頻出語	Jaccard係数
開催	.075	さとうさんち	.118	介護	.195	コトナハウス	.050
カフェ	.071	オーナー	.085	カワカキKINMA	.088	ワークショップ	.047
ネコ	.051	開催日	.056	認知症	.081	クッキー	.033
茶の間	.050	開催	.040	参加	.079	作る	.027
お菓子	.048	貸切	.027	参加者	.072	プロジェクト	.023
ランチ	.040	庭	.023	開催日	.068	パティシエ	.022
子供	.038	浦和防衛連合	.020	スタッフ	.066	カレンダー	.021
美味しい	.034	募集	.018	家族	.060	オーナー	.018
素敵	.034	食べる	.018	カワカキKINMA	.048	住人	.018
看板	.030	フル	.017	地域	.046	利用者	.016

※抽出語の右隣の値は Jaccard 係数

Jaccard 係数とは集合体の共通要素の割合を求めることで集合間類似度を表す。公式は左記の様に示される。値域は0～1の間。数値が大きくなるほど、文書 C_i, C_j に対して、含まれる単語の類似性が強い。

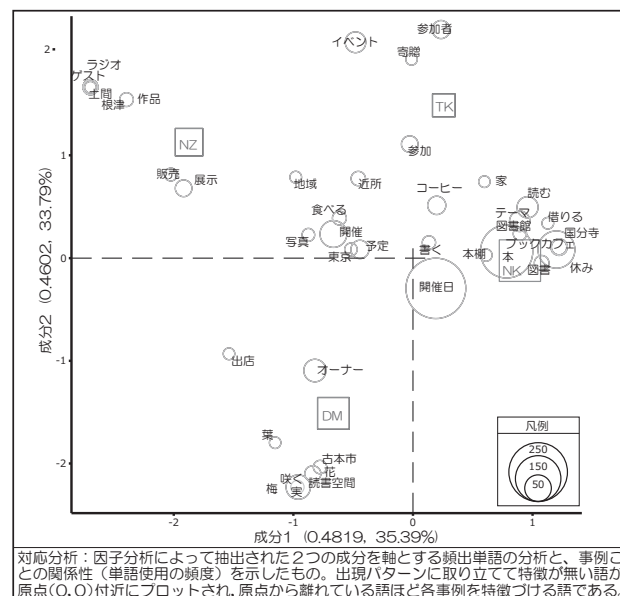


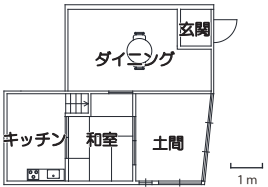
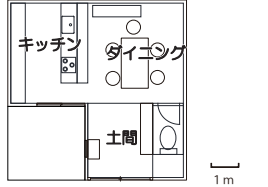
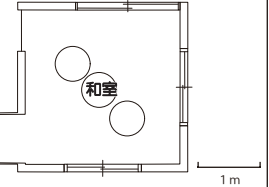
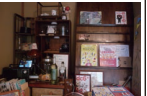
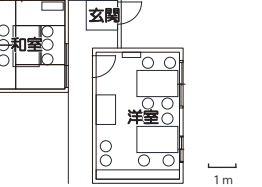
図3 KH coder による4事例の対応分析

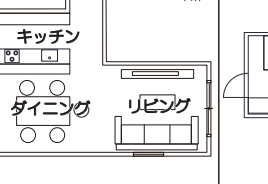
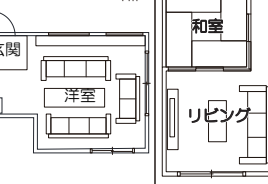
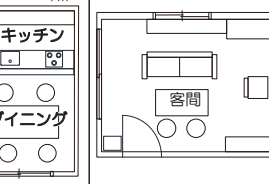
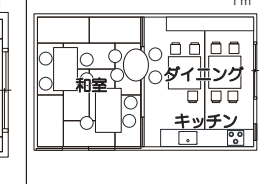
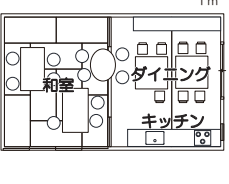
周辺地域住民を含めた幅広い層に対して情報発信・広報活動をしている実態が把握できる。

3.2 広報活動実態調査

Facebook を用いて広報活動を行っている事例 17 件について、記述内容から活動内容を抽出し、分類して

表5 ヒアリング調査結果

調査対象	A (文京区)	B (国分寺市)	C (さいたま市)	D (習志野市)
運営主体	シェアハウス住人	シェアハウス住人	個人	個人
開設年	2017 年	2015 年	2016 年 10 月	2012 年
1 回の利用者数	3 ～ 10 人	3 ～ 15 人	10 人 ～ 20 人	6 人 ～ 20 人
スタッフ数	1 ～ 4 人	1 ～ 3 人	1 人	1 人
建築形態	元店舗	元店舗	戸建て住宅	戸建て住宅
開放日	不定期	月・水・金曜日	不定期	不定期 (月 3 回)
平面図	   外観写真 ワークショップの様子	   内観写真 外観写真	   内観写真 昔ながらの家具	   外観写真 和室・活動の様子
建物の特徴	たばこ屋と靴屋の 2 軒を DIY で改修し繋げている。	商店街の店舗 2 軒を改修し繋げ、1 階を開放している。	一軒家の一室とキッチンに住み開きして地域の住民に開放している。	一軒家の和室 (6 畳) と洋室 (8 畳) を地域の住民に開放している。
事業の経緯	シェアハウスに住んでいた学生が新しいことを始めたいと考えたことがきっかけである。	同じ意思を持つ人と協力し、地域の人々が集う場をつくりたいと思い、シェアハウスという形で運営することになった。	運営者が震災を経験した後、地域の人達とつながりが必要だと考えたことがきっかけである。	震災をきっかけに、地域の助け合いの基盤を作るために今あるものを使って何かできないかと考えた。
運営理念	地域住民がやりたいけれど今までできなかったことを実現できる場所。	住人、オーナー、近隣住民といった自然と集まった人たちが、この場所を使ってそれぞれのしたいことをかたちにする場所。	「自分が楽しいと思えることをする」を運営理念にし、それを地域住民とともに取り組んでいる。	居合わせた人々がその場でゆるくつながれるコミュニティの場を目標に、地域の茶の間を作った。
活動内容	地域住民主催のワークショップや有料貸しスペースとして利用されている。	ご飯会を開いたり、こども向けの英語教室、ワークショップを行っている。	ご飯会で行われるワークショップ、防災を絡めたイベントを行っている。	親子向けのイベント、ボランティア作業やクラフト教室などを行っている。
活動方法	住人がいる時間は常時利用可能。	ワークショップ開催時のみ利用可能。	ワークショップ開催時のみ利用可能。	イベント開催時のみ利用可能。

調査対象	E (世田谷区)	F (北区)	G (習志野市)	H (世田谷区)	I (世田谷区)
運営主体	個人	シェアハウス住人	個人	個人	個人
開設年	2014 年	2020 年	2012 年	2017 年	2015 年
1 回の利用者数	6 人 ～ 10 人	1 人 ～ 20 人	1 人 ～ 10 人	1 人 ～ 6 人	1 人 ～ 30 人
スタッフ数	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人
建築形態	戸建て住宅	戸建て住宅	戸建て住宅	戸建て住宅	戸建て住宅
開放日	毎週火曜日・第 3 木曜日・第 2 土曜日	不定期	不定期	毎週金曜日	毎週金曜日
平面図	   外観写真 ダイニング・活動の様子	   外観写真 内観写真	   活動内容例 活動内容例 注 6)	   内観写真 活動の様子	   外観写真 和室・内観写真
建物の特徴	一軒家のリビングとダイニングを開放している。	古民家を DIY し、シェアハウスと事務所を併設している。シェアハウスの共有部を開放している。	一軒家のリビング、ダイニング、和室を開放している。	一軒家の洋室を開放している。	一軒家のリビング (8 畳)、ダイニング (6 畳)、和室 (10 畳) を開放している。
事業の経緯	自身の子育てがひと息つき、周囲が親の介護の問題を抱えていると気がつき、介護している人がひと息つける場を作った。	中規模物件の空き家が増えてきている中で、空き家を 2 つの組織で借りて運用してみる実験の場として地域に開放しつつ利用。	自身の子育てが一息つき、元保育士として得た経験を活かして子育てをしている親を支える場所をつくった。	昨今の高齢者は近隣の方とおしゃべりする機会が少ないことを危惧して自宅を開いた。	震災を通して地域の力の大切さを痛感し、自宅を地域に開放し、公営にはない空間を作り出したと考えた。
運営理念	日々介護に追われる人たちが、手作りのケーキを食べてほっとひと息つける場として開いた地域の居場所。	家具メーカーや地域の家具メーカーのロスを循環する流れ作りを地域に根付き行う。	子育てをしている親を支え、子育てに関する情報を提供、共有する場。	年齢に関わらず想いを吐露できる場所。	「つながる居場所」として、地域住民の力を集め、共に生きることを楽しめる身近な関係を創っていく拠点となることを目指している。
活動内容	ケアラースカフェ、コミュニティカフェ、不定期で専門家を招いたミニセミナーを開催している。	自宅と前の通りを利用して小さなマルシェを開いたりなどのイベントを開催している。	子育て支援相談、本の絵本、読み聞かせを行っている。	おしゃべりサロン、ファッション相談室などのイベントを開催している。	まぜっこ食堂 (こども食堂)、季節のイベントを行っている。
活動方法	イベント開催時のみ利用可能	イベント開催時のみ利用可能	イベント開催時のみ利用可能	イベント開催時のみ利用可能	イベント開催時のみ利用可能

分析を行った。抽出語同士の同時出現度を表した共起ネットワークを図2に示す。色の濃淡はネットワーク分析における中心性の高低を示し（濃いと高く、薄いと低い）、円同士をつなぐ線の濃さは共起関係の強さを示す。また、円の大きさは語の出現回数の多さを示す。

活動内容や有する要素別に傾向を見たとき、特徴的な結果が得られた「ライブラリー」機能を持つ事例4件での、出語同士の同時出現度を表した共起ネットワーク（図3）を示す。事例NZでは、[壁／塗る／ペンキ]の語が共起関係にあり、これは運営者と協力者によるDIYの様子を投稿しているためである。事例NKでは、[図書館／書店／ワークショップ]が共起関係にあり、自宅外とも連携した活動を行っていることが読み取れる。また、事例DMでは[実／生る／色づく]が共起関係にあり、植物の成長に関する投稿を中心に行っている特徴が反映されている。

4事例の共起ネットワーク（図2）と特徴語（表4）を併せて読み取ると、「事例NZ：イベント開催予定とDIYの様子、事例NK：本の紹介、事例TK：利用者の活動内容とイベントの案内、事例DM：読書空間から望む庭の様子と変化」と、それぞれの活動や空間の特徴を重視した広報活動を行っていることが読み取れる。逆に、発信の題材となる活動や空間の特徴を有することが、住み開き事例ごとの特徴／固有性、この物理的な「場」への誘因要素となっていると言い換えられる。これら「ライブラリー」機能を持つ4事例の、対応分析（図3）を読み取ると、どの事例でも「開催日」や「本」が言及されている。また、「近所」や「地域」への言及頻度から、地域に根付いた活動内容が提供されていると推測できる。事例NZは「土間」などの開放空間、事例MSは「花／咲く」など特に開放空間から望む庭に咲く植物が言及されており、これらの特徴的空間や変化のある自然要素は広報活動で言及される特徴的な語といえる。

また、4事例に加え8事例の特徴語（Jaccard係数による）を表4に示す。「ライブラリー」機能を持つ事例

では「居間／読書空間」といった空間を指す語句や「花／実」などの環境構成要素についての語句が4事例中3事例みられたが、ライブラリー機能を持たない事例にはみられなかった。これは、読書機能をもつ住み開き事例では、空間的要素への意識の強さや、こうした開放空間の環境構成要素の変化についての発信が有効と考えていることを示すと考えられる。

4. 運営実態調査

4.1 ヒアリング調査結果

住み開き事例の実態を把握するために、表3の事例のうち広報活動実態調査を行った事例5件と他4事例の運営者へヒアリング調査を行った。調査内容は、施設概要（運営主体、開設年、利用者数、スタッフ数、開放日）、企画・構想（活動内容、開設に至るまでの経緯、理念や考え方）、計画・設計（計画・設計への工夫、外装・内装について）、運営方法（運営での課題と解決策、地域連携について）の4つを軸とした（表5）。

事例Aはシェアハウス兼プロジェクトスペースとして利用されており、学生4人がシェアハウスとしてここに住みながら、1階の一部を開放している。元店舗で対外的に開かれている建築形態を活かし、イベント時は入り口を開けて気軽に入りやすいような空間づくりを行っていた。また、事例Eはケアラズカフェとしてリビング、ダイニング、キッチンを開放しており、参加者同士顔をみながら会話できるようにテーブルと椅子を配置している。また、参加者の多くが高齢者であるため、家具を椅子座位の取れる椅子とテーブルにすることで身体の負担を減らし、過ごしやすい工夫をしている。また、事例Iでは、リビング、ダイニング、キッチン、庭を開放して主に子供食堂として運営している。また、庭を利用した屋外での季節のイベントなどを行っている。このように、事例ごとそれぞれ個別に有する建築的特徴を活かして、社会資源として機能していた。

4.2 ラダーリングインタビュー調査

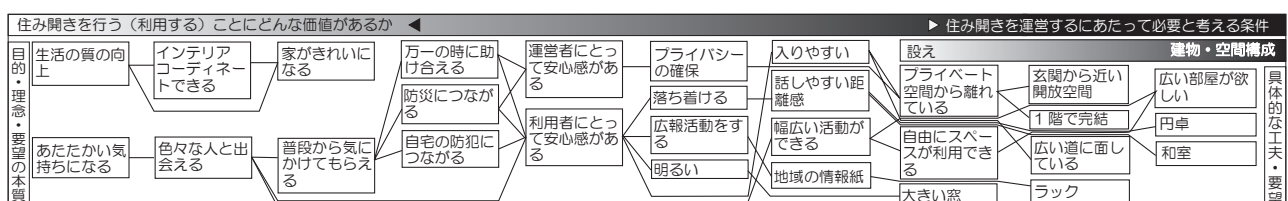


図4 ラダーリング・インタビューの実施例（事例C）

事例A～Iに対しラダーリングインタビュー^{注7)}を行った(図4)。運営者に「住み開きを運営する(利用する)ことにどんな価値があるか(左方向)／そのため(であるため)に必要な環境(右方向)」の質問を重ね、運営に求められる事項の構造と具体的な要求を聞き取り、図5、6に整理した。図の右側が環境要素への具体的な評価や要望、左側が目的や理念にあたる。また、各事例のラダーリングインタビューで得たコメントを図7に整理した。図5、6、7をあわせて読み取り、商店建築を改修した住み開きを行っている事例ABと、戸建て住宅を利用して住み開きを行っている事例CDEFGHIに分けて構造を整理した。

1) 商店建築

商店建築(図5)では運営の目的として「地域との

友好関係」が挙げられ、その条件として「外から中の様子が見える／ガラスドアの玄関／雰囲気わかる」が寄与する構造がある。運営者の目線では、「地域への愛着／視野が広がる」[地域のニーズを把握できる／協力を得られる]という構造もみられた。戸建て住宅での住み開きに比べて、地域や外との関係性を重視していることが読み取れた。これは、商店建築の建築空間としての特性がそもそも外から人を招き入れやすく、外部に対して内部の滞在者や提供サービスをアピールする特性と対応する特性である。そこには、こうした建築空間を活かすという発想があればその「見いだされる価値」である側面と、そうした価値／ねらいを有する運営者によってこの空間が利用されるべき場所として見いだされた側面との両方があることが推察さ

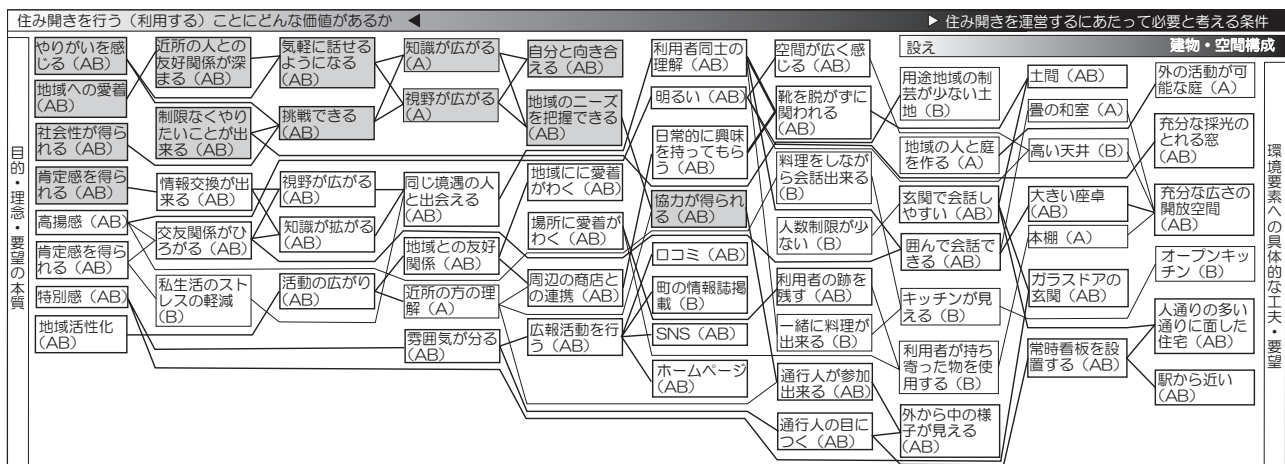


図5 住み開き事例に求められる事項とその構造(商店建築2件)

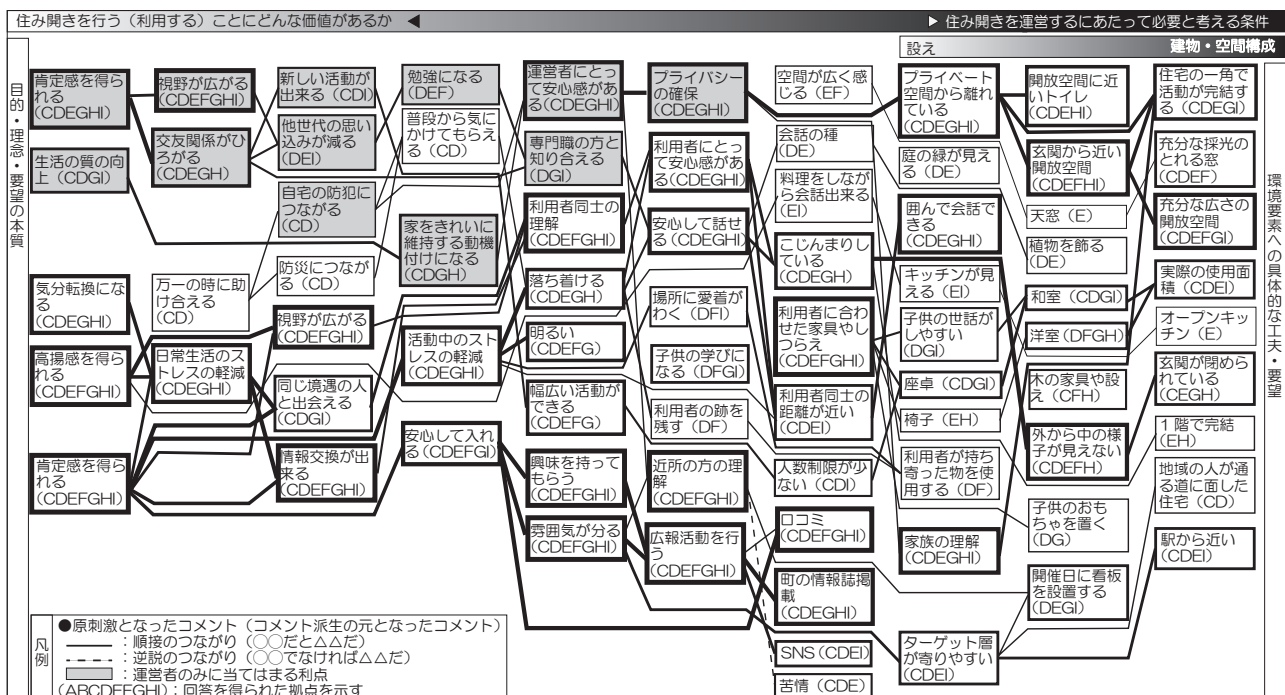


図6 住み開き事例に求められる事項とその構造(戸建て住宅7件)

れる。

また、この事例 AB は共通して「土間」空間をもっている。[土間]という環境要素から、[靴を脱がずに関われる／交友関係の広がり／利用者同士の理解／高揚感]が寄与する構造がある。これは、土間の持つ内外をあいまいにする特徴を利用し、気軽に利用者や運営者同士が関われる工夫であることが読み取れる。また、「家に入る」という不安要素の軽減にも繋がっていることが読み取れる。

商店建築を利用した住み開きは、[雰囲気わかる／常時看板を設置する／通行人の目につく／通行人が参加できる]から派生した、戸建て住宅での住み開きではみられなかった構造が多く読み取れた。これは、利用者の入りやすさを重視した設えにより、常連の利用者だけでなく、一般の通行人もターゲットとした活動を行っていることが推測できる。

2) 戸建て住宅

戸建て住宅(図6)での住み開き事例では目的・理念として「日常生活のストレスの軽減／気分転換」が挙げられ、その実現に「利用者同士の理解／利用者にとって安心感がある／外から中の様子が見えない」が寄与する構造があると整理できる。このように、戸建

て住宅では、会話のしやすさや過ごしやすさといった住宅ならではの安心感がストレスを減じている構造が把握できた。また、図7から、利用者に合わせた家具や設え、具体的には子どもの世話のしやすい畳敷きの和室への座布団やちゃぶ台の設置や、足が痛い人でも使える椅子やテーブルの選定など、期待する利用者に対応する環境整備の重要性が読み取れた。また、運営する上での要望として「運営者にとって安心感がある」が挙げられ、その実現に「プライバシーの確保／プライベート空間から離れている／玄関から近い開放空間／住宅の一角で活動が完結する」が寄与する構造がある。これは商店建築での住み開きではみられなかった構造であり、戸建て住宅での住み開きにおいてプライバシーの確保の重要性が読み取れた。

3) 両者の共通点

商店建築、戸建て住宅のいずれも、運営者、利用者共に「交友関係の広がり」が重要な要素と指摘している。住み開きの目的・理念として、[肯定感(やりがい・充実感など)を得られる]やそれを支える[知識が広がる／視野が広がる]が挙げられる。その実現に「利用者同士の理解／囲んで会話できる」が寄与する構造がある。

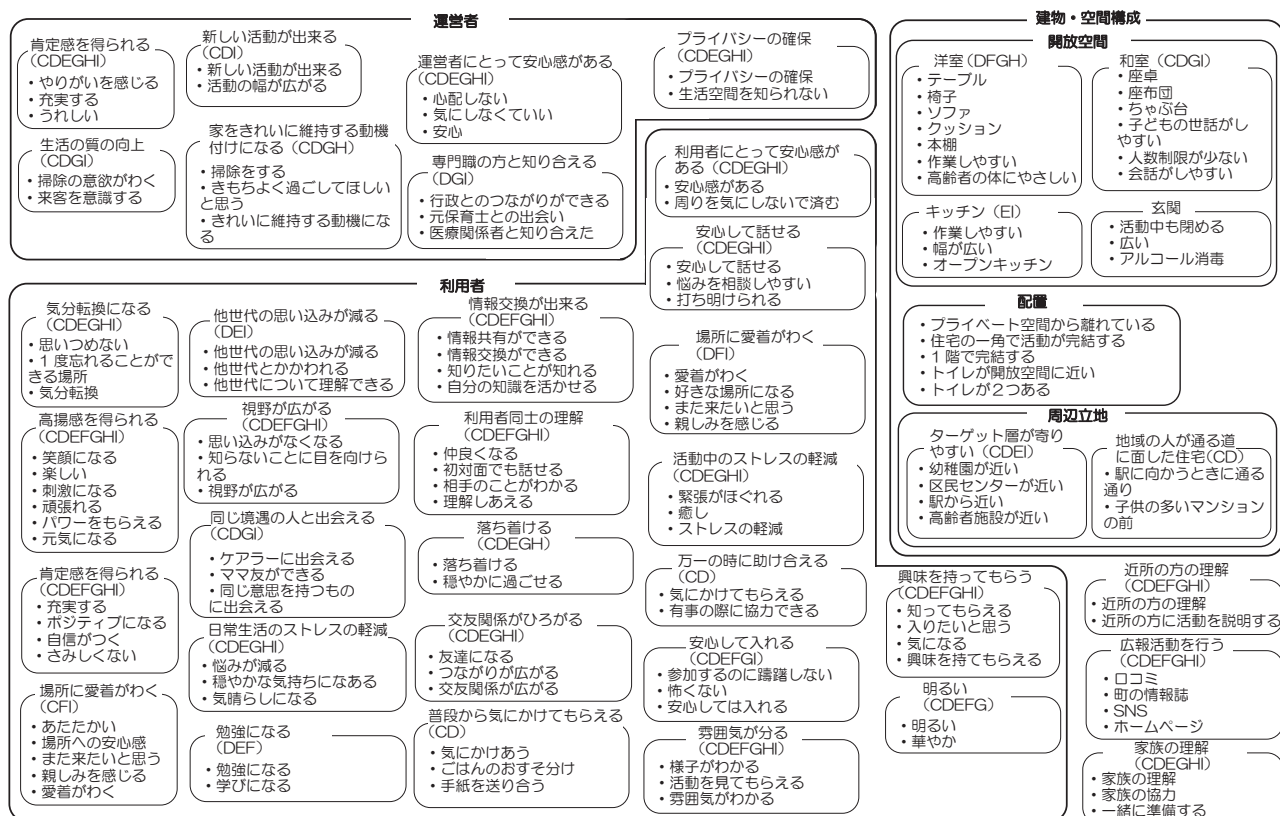


図7 ラダーリングインタビューで得られたコメントの整理

5. まとめと考察

本稿では、web 検索を用いた事例収集によって住み開きの事例における活動実態の概要を整理し、さらにヒアリング調査により住み開き事例の運営実態を明らかにした。

ケアラズカフェを行っている事例では、高齢の利用者のために椅子を用意したり、子供を対象にした事例では子供が絵を描いて遊べるように黒板やホワイトボードを壁に設置したりなど、目的や理念に対して環境要素が工夫されていた。

また、住み開き運営者へのラダーリングインタビューから、商店建築型は地域と連携した取り組みや、室内を見せる建築形態だったが、戸建住宅は住宅ならではの閉鎖的な空間による安心感から利用者同士の深い関わりを誘発しており、住宅の形態によって目的や、利用者や地域との関わり方に違いがある。

KH_coder による、SNS を用いた広報活動で重視している点の分析では、どの事例でも開催日や地域に根付いた活動内容情報を発信しており、地域や活動内容によって発信する内容に差異がみられた。特に読書機能を持つ事例は空間的要素への意識の強さや、開放空間や環境構成要素の変化についての発信が有効と考えていた。

これらより、今後の住み開きでのコミュニティ拠点の整備では、運営者のプライバシーに配慮しつつ活動内容に合わせた広報活動と空間づくりが必要であると考えられる。

謝辞 本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本研究は、東京電機大学総合研究所研究課題 Q19E-05 (2190005)「[ただ居ること]ができる[衣・食・住]の場とコミュニティ形成拠点に関する研究(研究代表者:山田あすか)」の一環として行われました。

注釈

注1) 住み開きとは、アサダワタル氏によって提唱されたことばである。空き家などの活用ではなく、個人の住宅などを、住人が住み続けている状態で、その一部を地域住民などが利用できるように開放する活動をの総称の意味で用いられる。近年、そうした場はコミュニティの形成や地域活動の拠点として、注目されている。また、開放する場合は、住宅だけでなく民間の事業所などにも、広がっている。

注2) 各種 SNS の国内における単純ユーザー数は、情報発信系では Twitter > Instagram > Facebook の順に多い。このうち、地域密着人口に該当する割合が高い 60 代のシェアは Facebook が最も高

い⁶⁾。また Facebook の記事投稿における文字数制限は 63,206 文字であり、twitter や Instagram に比べて文字としての情報量が多かったため、テキストマイニング調査に適していると判断した。

注3) 最新の投稿から遡った 100 件の投稿記事の期間について、図 2 の 4 事例での期間を以下に示す。事例 NK: 2015 年 5 月 3 日～2020 年 4 月 26 日、事例 DK: 2019 年 8 月 10 日～2020 年 4 月 25 日、事例 TK: 2019 年 7 月 1 日～2020 年 4 月 12 日、事例 NZ: 2018 年 11 月 25 日～2020 年 1 月 23 日。

注4) 「KH Coder」とは樋口耕一氏が開発したテキスト型(文章型)データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアである。新聞記事、質問紙調査などの自由回答項目やインタビュー記録といった様々なテキストデータを計量的に分析する目的で制作され、社会学、心理学など複数の分野の数多くの論文での使用実績がある

注5) 研究・調査期間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種制約下にあったため、詳細な事例の実態調査のため現地訪問の実施可能性がある地域として 1 都 3 県(非常事態宣言等が連動して発出される地域である)を選定した。

注6) 事例 G は現在活動を停止しているため、当時と同様のイベントを別施設にて行っている写真を掲載した。

注7) 「○○が△△なので“良い/悪い”」というインタビュー本人のコメントを原刺激として、「(○○が) △△だどのように良いか/悪いか」という質問を繰り返して要求の根幹を(図 4・図 5・図 6 の左の方向)探る。また、原刺激をもとに「(○○が) △△であるためには具体的にどのようなことが必要か」という質問を繰り返して具体的な環境構成要素へのニーズを(図 4・図 5・図 6 の右の方向)尋ねた。

参考文献

- 1) 松本暢子: 地域社会における多世代共生の可能性 一 家族と住まいに焦点を当てて ― 特集 公開シンポジウム, 2019 年 38 巻 p. 5-14
- 2) 総務省「暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業」報告書(平成 27 年 3 月 27 日)
- 3) 総務省「今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会」報告書(平成 26 年 3 月)
- 4) アサダワタル, 住み開き = sumibiraki: 家から始めるコミュニティ, 筑摩書房, 2012 年
- 5) 小松尚, 辻真菜美, 洪有美: 地域住民の居場所となる交流の場の空間・運営・支援体制の状況―地域住民が主体的に設立・運営する交流の場に関する研究 その 1 ― 日本建築学会計画系論文集 第 611 号, 67-74, 2007 年 1 月
- 6) 主要 SNS 数ユーザーデータ資料, 2019 年, <https://gaiax-socialmedialab.jp/post-30833/> (参照日 2021. 2. 27)